

令和5年度

学校自己評価報告書

令和6年7月

専門学校宮城高等歯科衛生士学院

自己点検評価集計結果

1. 学校の教育方針

宮城高等歯科衛生士学院の教育理念である、高度な専門能力・自ら課題を創造する・思いやりと社会性を持ったヘルスプロモーションの担い手として医療機関・施設・行政において、必要とされる各業務に適応できる人材を育成する。今後さらに充実させ、新たなる改革と発展を目指し、教職員の意識改革・自己研鑽に努める。加えて、高度な視点から多様化した歯科保健医療を捉えた質の高い歯科衛生士として国民の新たなニーズに応える。

下記に列挙した資質を備えた卒業生は、“歯科衛生士”の資格に誇りを抱きながら、歯科衛生士界のリーダーとして活躍できるよう、宮城県歯科医師会を始め、関連団体をあげて教育を図る。

- (1) 基本的な医学知識を備えた行動
- (2) 生涯研修と自己啓発の意識
- (3) 歯科衛生ケアプロセスの実践
- (4) 対人サービスと社会性、コミュニケーション
- (5) 研究活動の奨励、カナダカモソンカレッジとの交流

2. 本年度に定めた重点的事項

- (1) 優れた資質を有する学生の確保とそのための効果的な情宣活動
- (2) 高等教育機関としての位置付け

本学院は、職業養成的性格から脱皮し、時代に即応したカリキュラム及び実習の内容を充実させ、それに伴って教職員の体制を整備する。

- (3) 宮城高等歯科衛生士学院・宮城県歯科医師会・会員歯科診療所・諸機関と連携した臨床実習施設を教育機関として位置付け、カリキュラムとの連動を考慮。会員診療所、大学のそれぞれの役割分担を明確にする。

- (4) カリキュラムの充実

学習者主体の最新の教育が行えるよう、カリキュラムプランニング能力を修得し、常に見直しを行う。また模擬患者実習、臨地・臨床実習など臨床に直結した教育内容をさらに充実させ、適正な評価とフィードバックにより、学生の目標への到達を確かなものとし、即戦力を目指した教育を行う。

- (5) 大学への編入

単位制の導入により実現した卒業生の大学への編入をさらに奨励する

- (6) 歯科衛生ケアプロセスの教育

歯科衛生ケアプロセスの教育を通して、問題解決能力を備えた歯科衛生士を育成する。

- (7) 歯科衛生士の活躍の場の拡大

多様な社会のニーズに応えられる幅広い知識・技術・態度教育の充実と、さらなる歯科衛生士の職域拡大に繋がる情宣・就職活動を積極的に行う。

(8) 教員の資質向上

教員研修を重視し、学士、修士課程の履修を奨励する。全国の歯科衛生士学校養成所との交流・連携を通して、教員の資質向上を図る。

(9) 研究活動

学生は3年間修得した学修の総括研究論文を通して、教員は学術研修、学会活動を通して、常に歯科衛生の理論と根拠を追求し、実践に結びつける努力を行う。

(10) 摂食・咀嚼・嚥下指導カリキュラム

学院内での講義実習、臨地実習をさらに向上させ、専門性の高い口腔ケアが行え、摂食・咀嚼・嚥下リハビリテーションの一端を担える歯科衛生士を育成する。

(11) 卒後研修の充実

歯科衛生士専任教員、職員全体の資質向上を図り、専門職としての生涯研修を補完する研修の場の提供と、そのためのカリキュラムを構築する。

(12) カナダカモソソカレッジとの交流

既に成果を挙げている海外研修をさらに推し進め、国際水準を教育に反映させ、教育の質の向上を目指す。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(評価について 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1)

(1) 教育理念・目標

本学院の教育方針・重点目標については、入学希望者に対してオープンカレッジ。学校ガイダンス等を行う際に説明している。また、保護者、在校生に対しては、入学時保護者会、ホームルームの時間に説明・周知している。

評価項目	評価
A 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3.8
B 学校における職業教育の特色を活かしているか	3.9
C 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・保護者等に周知がなされているか	3.8

【今年度の主な取組並びに成果】

- ①学校関係者評価委員会を開催し、学院運営状況、自己点検時の問題点等を検討・協議した。
- ②ホームページやSNSを駆使して学院の情報を広く示すことができた。
- ③保護者会を活用して、学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想を周知した。
- ④文科省の認定制度である専門学校における「職業実践専門課程」に認定された。

【来年度の課題】

- ①学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などを実現するため、安定した入学者の確保による、経営基盤の安定化を図る。
- ②ホームページやSNS等の媒体を更に利用し、学院の理念・目的をより分かりやすく周知する。

(2) 学校運営

本学院は、宮城県歯科医師会を運営母体としており、管理運営体制は、「宮城県歯科医師会定款」、「宮城高等歯科衛生士学院運営規程」等に基づき設置運営している。教育管理運営体制として、「役員会」、「学院全体会議」を設置している。

「学院全体会議」は、学院長、副学院長、教務部長、副教務部長、専任教員、事務長、事務職員で構成し、学院運営、学生教育の方向性を検討し、重要事項の決定を行っている。

また、自己点検評価や学生の福利厚生に関する事項についても協議、調整、議論を行っている。

評価項目	評価
A 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.5
B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.4
C 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか有効に機能しているか	3.4
D 人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.2
E 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.1
F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.1
G 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.4
H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.1

【今年度の主な取組並びに成果】

- ①学院の教育方針及び事業計画は、学院運営協議会、宮歯理事会並びに代議員会にて内容を審議し、計画に沿った運営を行っている。
- ②学院の決定は、「宮城高等歯科衛生士学院運営規程」等に基づき、学院役員会、学院全体会議で協議し事業を推進している。
- ③人事、給与に関しては、宮城県歯科医師会職員就業規程により対応している。

【来年度の課題】

- ①体外的にコンプライアンス体制の整備について具体的な対策に取り組む。
学校関係者評価委員会は重要な会議と位置づけている。
- ②業務を効率化に取り組むための情報システム化を率先して行う。

(3) 教育活動

厚生労働省の歯科衛生士養成所指定規則に基づいて教育課程の編成を行っている。歯科医学の進歩、歯科医療の社会的要請の変化を目極めつつ、新しい科目の導入、カリキュラムの改定などに対応する準備を勧めつつ、教育活動を推進している。

専任教員に対しては、自己研鑽を積み、歯科医学・医療、保健、教育関連の学会、研修、講演への参加することを進めており、こうした取組により教員の資質向上と、教育指導の充実に努めている。

また、臨床実習打合せ会議や講師、実習施設の指導者による教育懇談会を実施して、実習施設の指導者や講師との連携を図っている。

評価項目	評価
(目標の設定等)	
A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.8
B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育期間としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保がされているか	3.8
(教育方法・評価等)	
C 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.9
D キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.8
E 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.4
F 授業評価の実施・評価体制はあるか	3.6
G 教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.4
H 成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準は明確になっているか	3.5
(教職員)	
I 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.1
J 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3.1
K 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3.5
L 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.1

【今年度の主な取組並びに成果】

- ①カリキュラムは、カリキュラム検討プロジェクトを中心に、大学、実習先の歯科医療機関の助言を基に作成している。
- ②成績評価等については、学院全体会議にて審議している。
- ③教員の能力開発研修等は、新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い各種研修や学会に参加できた。

【来年度の課題】

- ①教員の更なる確保に努める。
- ②教員の研修会などへの参加を積極的に行い、研鑽を行う。

(4) 学修成果

歯科衛生士国家試験合格率100%を目指して、専任教員、講師は密に連携して国家試験対策補講、模擬試験、学内模試、グループ学習、国家試験担当講師による個別指導など最大限の対策を講じている。令和3年度は97%、令和4年度は92%、令和5年度は93%の合格率となった。

就職については、県歯科医師会との密接な連携だけでなく、幅広く求人票を受け付けており、今年度も100%の就職率となった。進路に不安を持つ者に対しては、専任教員、担任による面談、保護者を交えた三者面談等により、退学者の低減を図っている。

評 価 項 目	評 価
A 就職率の向上が図られているか	3.9
B 資格取得率の向上が図られているか	3.7
C 退学率の低減が図られているか	3.1
D 卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.6
E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.4

【今年度の主な取組並びに成果】

- ①退学者や休学者については、それぞれの事例に合わせた対応を行っている。
- ②安定した合格率を達成している。

【来年度の課題】

- ①退学・休学者をより少なくするため、日頃の学生一人一人へのケアを充実させる。
- ②追跡アンケートでの卒業生のキャリア形成の効果を分析する。

(5) 学生支援

学生の福利厚生体制では、問題を抱える学生の個別相談は担任教員、教務担当役員を中心に行い、教務担当者全体で情報を共有し、問題解決を図っている。

健康管理については、全学生に年1回の健康診断を実施している。1年生には、各種抗体検査を行い、陰性の学生に対してはワクチン接種の必要性を説明し、ワクチン接種を実施させている。

経済的支援では、授業料は比較的低廉に維持して入り、日本学生支援機構奨学金、教育訓練給付制度等の手続きサポートや保護者の経財的状况に応じた授業料等の分納などを行っている。

就職支援では、職業安定法や職業安定法施行規則による無料職業紹介事業による就職支援を行っている。また、県歯科医師会とも密に連携して、学生の希望に沿う就職先の決定に努めている。

評 価 項 目	評 価
A 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.9
B 相談に関する体制は整備されているか	3.7
C 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.7
D 学生の生活環境への支援は行われているか	3.4
E 保護者と適切に連携しているか	3.7
F 卒業生への支援体制はあるか	3.4
G 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.4

【今年度の主な取組並びに成果】

- ①就職支援体制は充実しており今後も続けていきたい。
- ②学生の健康管理や生活環境について専門家によるカウンセリングを行っている。

【来年度の課題】

- ①卒業生への支援体制について、今後も引き続き行っていきたい。

(6) 教育環境

歯科衛生士養成所指定規則に基づいた施設、設備を備えている。施設・設備などは低下しないよう

対策を施し、教育環境及び質の向上に努めた。

防災については、法定に基づいた防災訓練を実施している。図書については、系統的に分類、整備し、歯科医学、医療の進歩に合わせた図書の充実を行っている。

評価項目	評価
A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.4
B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3.3
C 防災に対する体制は整備されているか	3.1

【今年度の主な取組並びに成果】

- ①施設の充実を取り組み、改善している。
- ②地震による被害が生じたが、その都度的確に対応してきた。

【来年度の課題】

- ①更なる設備充実が必要であり、その為の早めの予算作りが必要となる。
- ②海外研修はコロナ感染、円安による旅費等の高騰により実施されていない。
再開については、様々な方面から検討が必要であるが、実施に向けて積極的に検討したい。
- ③防災に関して、更なる対応整備が望まれている。

(7) 学生の受入れ募集

歯科衛生士を志望する学生を広く受け入れることを基本として、学生募集を行っている。学校案内、募集要項、ホームページに学院の概要、入学試験、受験方法などについて示している。県下の高校訪問、校内ガイダンス、会場ガイダンスなどにより、学院の情報発信・周知に努めたが、令和6年度入学者は定員50名に対し47名の入学者となった。

評価項目	評価
A 学生募集活動は、適正に行われているか	3.7
B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.6
C 学生納付金は妥当なものとなっているか	3.6

【今年度の主な取組並びに成果】

- ①HPの充実と高校訪問の実施という、二つの柱を基により充実させている。

【来年度の課題】

- ①HPの更なる充実を図るため、新たなアプローチを接触的に進めていきたい。
- ②分母が少ない中で、如何に魅力的な職業かを発信していく必要がある。

(8) 財務

収支予算、事業計画は、過去の実績等に基づき作成し、適正な執行に努めている。決算報告については、設置者である県歯科医師会において監事及び公認会計士が確認しており、財務基盤は良好である。

評 価 項 目	評 価
A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.8
B 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.6
C 財務について会計監査が適正に行われているか	3.7
D 財務情報公開の体制は整備できているか	3.4

【今年度の主な取組並びに成果】

- ①入学生の変動により、財務基盤は単年度良好な形になりつつあるが、現2年生が34名のため、その学年が卒業するまでは、まだまだ厳しい状況が続く。

【来年度の課題】

- ①中長期的な財政基盤を安定させるため、積立金の充実が必要となる。

(9) 法令等の遵守

学校教育法、文部科学省の各種通達、厚生労働省が定める歯科衛生士養成所指定規則を遵守し、学校運営を行っている。個人情報保護に関しては、その重要性について教職員、学生に周知徹底し、適切な対応をしている。

評 価 項 目	評 価
A 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.8
B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.8
C 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.5
D 自己評価結果を公開しているか	3.6

【今年度の主な取組並びに成果】

- ①自己評価について色々な視点で分析し改善に当たっている。

【来年度の課題】

- ①個人情報保護について、再度詳細に検討し、充実を図るべきである。

(10) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	評 価
A 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.0
B 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2.7

【今年度の主な取組並びに成果】

- ① 新型コロナウイルス感染等のため不特定多数を対象とした活動はできなかった。

【来年度の課題】

- ①出来るだけ外に向けての発信が必要である。

(11) 国際交流

海外研修に取り組むに当たり

- ① 海外の高度な教育機関の施設見学及び教育者における講義受講。
- ② 歯科衛生士養成校におけるが構成同士の交流に重点を置き研修計画を推進している。

評価項目	評価
A 受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	3.6
B 学内での適切な体制が整備されているか	3.5

【今年度の主な取組並びに成果】

- ①今年も海外研修が出来ない状態だったが、リモートでの対応など改善が見られた。

【来年度の課題】

- ① 今年度、出来るだけ実施に向けて検討する。